

第4学年 体育科学習指導案

1. 単元名「跳び箱運動」

2. 単元の目標

- 基本的な支持跳び越し技をできるようにする。(知識・技能)
- 基本的な技の動き方や技のポイントを知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶことができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- 運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と励まし合って運動できるようにする。また、場や器械・器具の準備や片付けを安全に行ったり、試技の開始前の安全を確かめたりすることができるようにする。(学びに向かう力・人間性等)

3. 児童の実態

本学級の児童は、3年生での跳び箱運動の学習で、全員が開脚跳びをできるようになることをめざした。開脚跳びの一連の動作（助走・踏み切り・跳躍・着地）を分析し、踏み切りのリズムやタイミング、跳び箱への着手などポイントを理解させながら、動作を区切って捉えたり、よく似た運動（感覚作りの運動）で置き換えたり、スモールステップで指導することを大切にしてきた。また、ある程度、開脚跳びをクリアできた児童に対しては、次なる発展として、台上前転と抱え込み跳びに同様の手順で取り組ませている。

4. 単元について

①教科から見た特性

跳び箱運動は、マット運動、鉄棒運動のような技と技とを連続させて構成し表現する運動とは異なり、跳び箱を跳び越える瞬間的な技で構成される空間表現の運動である。①助走②踏み切り③第1空中局面④着手⑤第2空中局面⑥着地の6つの動作で構成され、どれが欠けても技が達成されない。6つの動作が一連の流れの中で絡み合い、うまく組み合わせられたときにはじめて跳び越すという技が達成できる。それらを「わかり」「できるようになること」がこの運動の面白さであり、学ばせたい学習内容であると考ええる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

跳び箱運動は、限られた場で行う運動であるがために、順番を待つ時間が生じてくる。そこで、順番の待ち方を工夫し、友達の動きをよく観察する能力を養いたい。上手な友達から動きのコツをつかんだり、つまづいている友達へアドバイスしたりすることを積極的に行わせていく。「発見」や「コツ見つけ」、励まし合いなど、仲間とかかわりながら、ともに学習する意味や価値を味わせたい。一つの跳び箱から生み出される身体操作技術を介して仲間と結び合える、跳び箱運動はそんな可能性をもっていると考えている。

5. 単元計画と資質能力を育成するための主な手立て（全9時間 本時6／9時）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 つかむ 2時間	・オリエンテーション ・跳び箱を使って、いろいろな跳び方を試す。	○先を見通す力 □好奇心、探究心	・学習カードの活用 学習記録は、自分の動きや活動を振り返って、その感覚を呼び起こし、自己の課題を自ら見つける力の育成につながるであろう。
第2次 広げる 4時間	・チャレンジタイム① 共通課題「開脚跳び」 ・チャレンジタイム② 3.4時「台上前転」 5.6時「抱え込み跳び」	○問題解決力 ○協働する力 ○伝える力 □協力し合う心 □他者に対する受容、共感、敬意	・タブレット端末の利用 映像で技の解説がなされた学習アプリを活用する。録画機能を活用することで、自分の動きを外から観察することにより、新たな学びの発見にもつなげていきたい。

第3次 深める 3時間	・チャレンジタイム① 共通課題「開脚跳び」 ・チャレンジタイム② 自分のめあてに応じた技に取り組む。	☐ メタ認知能力 ☐ 問題解決力 ☐ 向上心 ☐ 協力し合う心	・「発見」や「コツ見つけ」、励まし合いなど、仲間とかかわりながら、ともに学習する意味や価値を味わわせるため、友達へのアドバイスを進んで行わせる。
-------------------	---	--	--

6. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・友達と教え合い、励まし合いながら運動することができる。
- ・自分に合っためあてをもち、技ができるようになるために練習の仕方を工夫したり、活動する場を選択したりすることができる。

(2) 本時の展開

時 間	学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 12分	1. 準備運動や感覚づくりの運動をする。 ・ストレッチ ・感覚づくりの運動 2. 場の準備をする。	◇感覚づくりの運動は、単元を通して行い、ゲーム化するなど、楽しみながら行えるようにする。（協働する力） ◇安全に留意し、協力して準備できるようにする。（協力しあう心）
	3. 学習の流れを確認する。 ・本時の流れ ・学習課題	・学習の流れを確認し、活動の見通しがもてるようにする。 ◇前時の振り返り等から本時のめあてを確認する。（問題解決力）
	開脚跳びをもっと格好良くしたり、台上前転に挑戦したりしてみよう。	
展開 25分	4. チャレンジタイム① ・生活班で、開脚跳びに取り組む ・お互いにアドバイスし合う	<技の完成度を高める時間> ◇自分なりのこだわりをもって、運動ができるようにする。（向上心）
	5. 集合して「台上前転」の技のポイントを確認する。	・タブレット機器での撮影は、最終試技とし、開始時刻を指示する。 ◆安定した動作で支持跳び越しができる。 ◇前時までの実態を踏まえ、多くの子がめあてにしていることやつまずきについて指導を行う。（メタ認知力）
	6. チャレンジタイム② ・自分のめあてに応じた選択した場でグループを作り、台上前転に挑戦する。	<新しい技やできそうな技に取り組む時間> ※できるようになるためのコツを考えながら、友達と教え合い、励まし合って運動することができる。
終末 8分	7. 場の片付け、整理運動をする。	◇素早く、協力して行えるよう声かけする。（協力し合う心）
	8. 学習のまとめをする。	・新たな発見、できるようになるためのコツを中心に振り返り、次時の活動につなげていく。